

兵庫県医師会ドクターバンク News

5年目を迎えた新臨床研修医制度

平成16年に始まった新臨床研修医制度もこの4月から5年目に入る。若い医師にとってこの時期は医療技術を身につけ、臨床経験を積むために最も大切な時期である。以前の大学医局を中心とした医師研修システムでは、この時期、医師の多くは大学の所属科で専門分野の研修、あるいは研究にどっぷり浸かり専門医養成的研鑽を行なった。専門医になるには卒後早期からの研修は重要ではあるが、系統的な総合臨床研修は不十分になりがちで、ある意味では、専門分野以外の診療には無関心な医師養成システムであったとも言える。すなわち、専門医養成偏重の臨床研修システムでは総合診療の出来る General Physician(GP)は育ち難かった。一般病院でも、GPと専門医の区別は明確でなく、診療現場の医師は、専門医療とGP医療の双方をこなしている。このような効率の悪さは医療現場の多忙を来たし、医師の意欲衰退と疲弊を招いてきたとも言える。新臨床研修医制度は、従来の専門医養成に比重を置いた研修医制度を改めることを目的にスタートしたもののだが、現行システムでも救急などに対する研修はまだ不十分で問題点は多々残っている。しかし、現行システムを評価し改善するには今後何年もの時間が必要と考えられ、理想的なシステムに仕上がるには長い時間が掛かりそうである。

研修医も5年目を迎えると、一応、臨床力もついており、医師不足に喘ぐ病院にとっては、後期研修が未だ終了していない研修医と採用内定的約束をしようとする。一方、研修医も研修病院に満足しておれば、病院からポジションを約束すると誘われれば、後期研修が終了しても大学に戻らず直接、病院への「就職」を選ぶ。このような話は、研修医を受けているいくつかの病院でも、研修医自身からも聞かれる。研修医に好評の病院は都市部にある高度医療機関に多いが、都市近隣地区の公的病院も含まれる。また、以上のような病院からの勧誘以外に、卒後間もない多感な研修医にとって研修病院での感化は強く、孵化した幼鳥のイニシエーション的効果も無視できない。

いずれにしても、後期研修第1期生もあと2年すれば後期研修が終了するので、都市部の病院から医師不足は解消されていくものと考えられる。しかし、病院の医師定数は限られているため何年もこのような売り手市場が続くわけにはいかず、数年もすれば研修終了後の就職は、都市部ほど厳しくなると予測される。その時期こそが当バンクの出番である。

ただし、医師の診療科偏在解消は次元が異なり、今後も難儀な時代が続くものと考えられる。特に、産婦人科、小児科、麻酔科、救急医療に関しては、医師の使命感に頼っているだけでは解決にはつながらず、抜本的な世論の啓発、合理的な労働時間や報酬など医療環境の改善が必須である。

兵庫県医師会ドクターバンク実績（累計）

求人施設数	求人数	求職者数	医業継承求人数	医業継承求職者数	マッチング [*] 件数	成立件数
174	428	61	16	7	243	21

（注）平成20年4月30日現在のデータを掲載。

<連絡先> TEL：078-231-4114（代表）

担当者：後藤・都出

FAX：078-265-2822（専用）

e-mail：info@hyogo-doctorbank.com（専用）